

スタップ工法技術資料

住宅外張り断熱工法

2026.4.8 Ver4.1

株式会社アイコットリョーワ

Tel: 0572-27-6161

〒507-0068 岐阜県多治見市大藪町1989番地の5



はじめに

本書をご活用いただくために

「スタップ工法」とは、木造住宅において窯業系サイディングなどの適用下地に専用接着剤で適用タイルを張る工法です。

2015年2月、国土交通省より技術的助言（国住指第4291号）が発出されました。それを受けて、タイル張りが定着しています。住宅メーカー様では、タイル外壁を需要喚起資材として提案する機会が増えています。しかし、タイル張り職人の減少や技術継承不足により、品質確保が年々困難になっています。

さらに、2025年4月から施行される建築基準法第6条第1項第4号の改正により、省エネ基準への適合が新築建築物に義務付けられます。断熱性向上のために、柱や梁の外側から住まい全体を断熱材で包む「外張り断熱工法」が普及しています。この工法では断熱材が連続し熱橋が少なく、高い断熱性と気密性を実現します。外張り断熱工法へのタイル張りは、タイル外壁システムと構造体が断熱材の厚さ分離れる納まりとなります。したがって、胴縁留め付け材への負荷が大きくなり、補強が不十分な場合は、外壁の垂れ下がりや、脱落、漏水、下地材の変形など不具合の原因となります。そのため、遵法性と施工品質の両方の整合性を確保することが重要となります。

本書は改訂を重ね、主要な下地材であるサイディング工事を掲載しています。住宅外壁工事が分業の場合でも品質確保が可能であり、不具合の未然防止が目的です。専用下地・適用タイルの組み合わせは多岐にわたり、それに伴う手順も異なります。工事着手前に本書をご一読いただき、品質の高い外壁システムを提供できるようお願いいたします。

本書は住宅メーカー様の仕様をすべて網羅するものではありませんので、ご採用の際には関係者様との十分な打ち合わせをお願いいたします。

危険や損害の表示区分：

表示内容に従わなかった場合に生じる危害や損害を次の表示で区分しています。



禁止：行ってはいけない禁止内容の表示です。



警告：取扱いを誤った場合に、死亡または重傷、障害を負う可能性がある場合の表示です。



指示：守るべき行動の表示です。誤った行動の場合は、物的損傷や重大な不具合の可能性のある場合の表示です。

INDEX

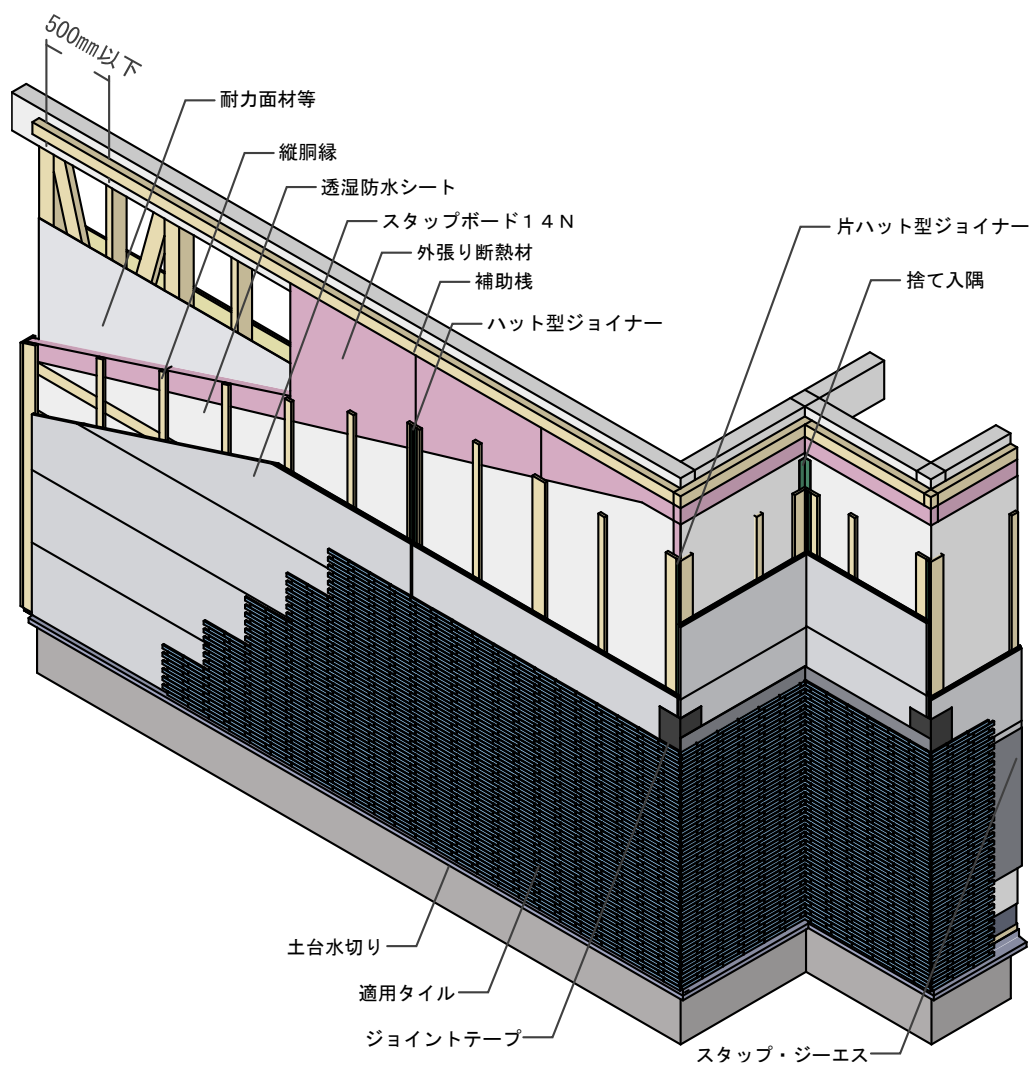
1.	設計・施工条件	3	8.	注意事項	28
1.1.	概要図	3	8.1.	安全衛生について	28
1.2.	適用条件	4	8.2.	部材保管・納入時の注意	28
1.3.	タイル下地一覧	5	8.3.	維持管理のポイント	28
1.4.	禁止事項	6			
2.	構成部材	7			
2.1.	構成部材一覧	7			
2.2.	構成部材姿図	8			
2.4.	工具	10			
3.	タイル下地工事施工手順	11			
3.1.	補助棧の留付け	11			
3.2.	断熱材の張付け	11			
3.3.	事前チェック	12			
3.4.	土台水切りの取付け	13			
3.5.	開口部廻りの防水テープ張り	13			
3.6.	透湿防水シートの施工	13			
3.7.	胴縁の取付け	14			
3.8.	付属部材の取付け	15			
3.9.	スタップ・ボードの留付け（切断）	16			
3.10.	シーリング工事	18			
3.11.	清掃・残材処理	19			
4.	タイル張り工事	20			
4.1.	タイル下地サイディングのチェック	20			
4.2.	板間処理（ジョイントテープ貼り）	20			
4.3.	不陸調整	21			
4.4.	タイルの割付け	21			
4.5.	タイルの墨出し	21			
4.6.	タイル張り	21			
4.7.	紙剥がし・目地詰め	22			
4.8.	洗浄	23			
4.9.	付属部材の取付け・化粧シーリング	23			
4.10.	最終検査	23			
4.11.	補修方法	23			
5.	適用タイル一覧（2026.4.）	24			
6.	納まり参考図	25			
6.1.	一般部（水平断面）	25			
6.2.	一般部（垂直断面）	25			
6.3.	土台部	25			
6.4.	一般部（上下接合部）	25			
6.5.	出隅部	25			
6.6.	入隅部	25			
6.7.	開口部（水平断面）	25			
6.8.	開口部（垂直断面）	25			
6.9.	軒天部	25			
6.10.	オーバーハング部	25			
7.	チェックシート	26			

1. 設計・施工条件

1.1. 概要図

システムの構成は、窯業系サイディングやモルタルなどの適用外壁下地、接着剤、タイルからなります。また、窯業系サイディングの縦ジョイント部にまたがってタイルを張る場合には、タイルの割れ防止のために、原則ジョイントテープを用います。

外壁材の脱落を防止するため、胴縁留付けには指定ビス以上を使用します。詳細はP.14を参照してください。



1.2. 適用条件

1.2.1. 適用範囲

適用範囲は以下の条件となります。

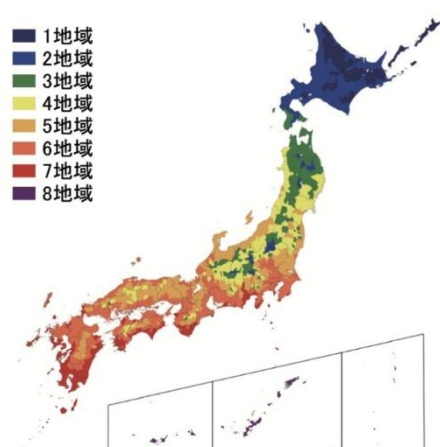
項目		スタップ工法の適用範囲
地域	一般地域／寒冷地域	外壁通気構法（胴縁仕様）
適応建物	構造	木造軸組工法（筋交い壁・耐力面材壁） / 木造枠組工法
	高さ	地上2階建て以下
断熱材	種類	厚さ50mm以下の発泡系断熱材
下地組	種類	柱・間柱（筋交い壁・面材壁）に、指定ビスで留付けされた胴縁下地組みかつ、指定間隔で補助受桟が設置された下地組み
	胴縁の留付け	ビス：パネリードII（断熱材厚さ30mm以下…L100 40mm以下…L110 50mm以下…L120）
	胴縁の間隔	500mm以下で設置され、指定間隔でビス留めされていること 以下、外壁重量（選定タイル+ 接着剤2kg/m ² + 下地17kg/m ² の合算）ごとの指定間隔 45kg/m ² 以下 @ 300（ボーダータイルなど） 49kg/m ² 以下 @ 250（二丁掛け空目地など） 55kg/m ² 以下 @ 200
	胴縁の種類	一般部 : 18 x 45mm以上 板間継部 : 18 x 90mm以上 開口部など : 18 x 90mm以上 出隅部 : 18 x 140mm以上 樹種 : 平滑なスギ・米松・米栂・赤松のKD乾燥材で、ねじれや反りが無いこと
	受桟／補助桟	幅 : 45mm以上かつ断熱材厚さの1.5倍以上 厚さ : 断熱材厚さ 樹種 : 平滑なスギ・米松・米栂・赤松のKD乾燥材で、ねじれや反りが無いこと
	受桟／補助桟の留付け	L100以上のビスで、500mm以下の間隔で留付け
タイル下地	下地の種類	スタップ・ボード14N
	下地の留付け	リングネイル
接着剤		スタップ・ジーエス / スタップ・ジーレス
タイル		適用タイル

・木造建築2階以下の建物に使用できます。詳細はP.5を参照してください。

・一般地域・寒冷地域共に胴縁仕様による通気構法を採用してください。

1.2.2. 適用地域

スタップ工法は、下記に示す「建築物省エネ法」地域に適用します。詳細地域は、国土交通省HPの最新地域区分表をご確認ください。



1.2.3. 適用構造

以下に本製品の主に使用可能な用途・構造を示します（主用途以外はグレー表示。）。

用途	地域	階層	延べ面積S(m ²)						
			S≤100	100<S≤500	500<S≤1000	1000<S≤1500	1500<S≤3000	3000<S	
共同住宅	防火地域	3	外壁：耐火構造 (法61条)						
		1,2							外壁・軒裏：45分準耐火構造 (法61条)
	準防火地域	4	特定避難時間倒壊等防止建築物(法27条1項の1) 外壁：1時間準耐火構造				外壁：耐火構造 (法61条1項)		
		3	外壁・軒裏：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)		外壁・軒裏：45分準耐火構造 (法62条1項)				
		1,2	外壁・軒裏：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)		外壁・軒裏：45分準耐火構造 (法62条1項)				
	22条地域	4	特定避難時間倒壊等防止建築物(法27条1項の1) 外壁：1時間準耐火構造				外壁：耐火構造 (法61条1項)		
		3	特定避難時間倒壊等防止建築物(法27条1項の1)(令110～令110の3)(H27告示255第1の1項の2) 外壁：1時間準耐火構造						
		1,2	外壁：準防火性能 延焼のおそれのある部分の 構造(法23条)	外壁・軒裏：耐火構造 2階以上の床面積200㎡≤S(法24 条)	2階床面積300㎡≤Sの場合、特定避難時間倒壊等防止建築物(法27条2項の 2) 外壁：45分準耐火構造	3000㎡毎区画 (法21条)			
	戸建住宅 一般の建築物	防火地域	3	外壁：耐火構造 (法61条)					
			1,2						
準防火地域		4	外壁・軒裏：耐火構造 準防火戸建3階仕様 (法62条1項、令136条の2)				外壁：耐火構造 (法61条1項)		
		3	外壁・軒裏：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)		外壁・軒裏：45分準耐火構造 (法62条1項)				
		1,2	外壁・軒裏：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)		外壁・軒裏：45分準耐火構造 (法62条1項)				
22条地域		1,2	外壁：準防火性能 延焼のおそれのある部分の構造 (法23条)		外壁・軒裏：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法25条)		3000㎡毎区画 (法21条)		

- ・上記内容には、その他防火区画、内装制限などがありますので、建築基準法、建築基準法施行令に準じてください
- ・窯業系サイディングは準防火性能の認定を取得していませんが、防火構造の認定で対応することができます。
- ・建築基準法施行令136条の2に適合する防火措置を講じることで、外壁を防火構造とすることができます。
- ・階数が4以上の建築物は耐火構造としなければなりません。
- ・45分準耐火構造とあるのは、準耐火建築物のイ準耐・ロ準耐の適合する構造とすることもできます。
- ・準防火戸建て3階仕様の防火構造以外の1時間準耐火構造、45分準耐火、防火構造、準防火構造とあるのは、建物の延焼のおそれのある部分に限る要求性能です。
- ・大規模建築物の木造3階建の基準とすれば高さに制限はありません。
- ・高さ16mを超えるものは特殊な場合を除き、大規模建築物の制限を受け、外壁は耐火性能を有するものとなります。
- ・3000㎡ごと区画は、各区画を3000㎡未満とし「壁」(令109条の5、平成27年告示250号)によって分割することで、3000㎡の場合と同様の構造で建てられます。

1.2.4. 防耐火性能リスト

- ・スタップ・ボード14Nは防耐火構造の認定を取得していますが、設計および確認申請は各断熱材メーカーの防火認定番号を使用し、その仕様に適合していることを確認してください。

項目		認定番号
材料認定	準不燃材料	QM-0639
防火構造	木造下地	PC030BE-9201
45分準耐火構造	外壁(耐力)	QF045BE-9226

1.2.5. 防火認定番号(参考抜粋)

- ・認定番号の参考を以下に示します。システム構成は断熱材メーカーごとに異なりますので、詳細は断熱材メーカーにお問い合わせください。

区分	項目		構造	構造用面材	内壁	認定番号
防火構造	ネオマフォーム	旭化成建材	軸組	木質系ボード	内装制限なし	PC030BE-2200
			枠組	あり	石膏ボード9.5mm以上	PC030BE-0130
準耐火構造45分			軸組	なし	石膏ボード12mm二重張り	QF045BE-9141
			枠組	あり	石膏ボード12mm二重張り	QF045BE-0123

1.3. タイル下地一覧

1.3.1. 専用下地

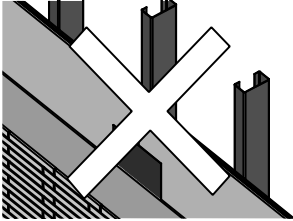
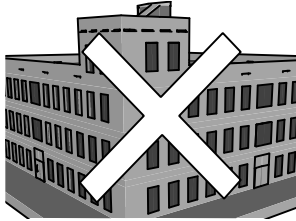
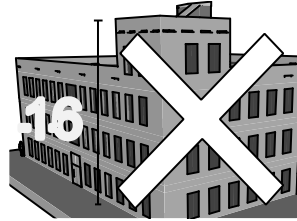
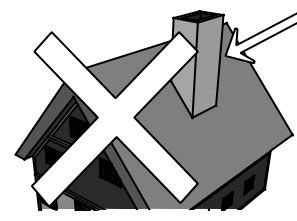
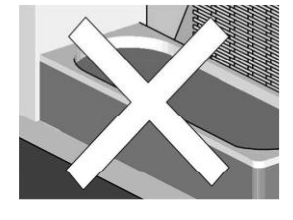
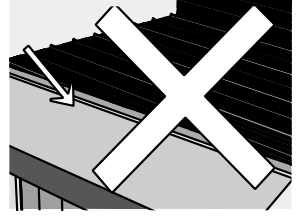
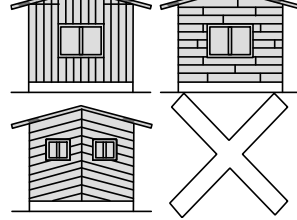
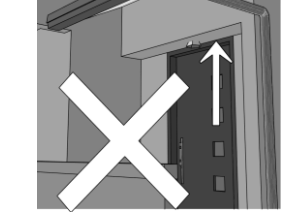
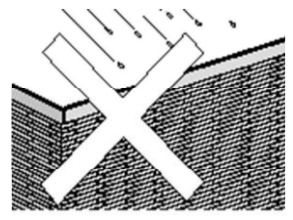
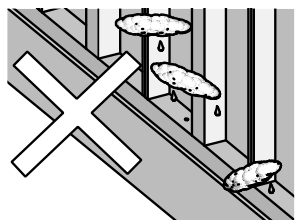
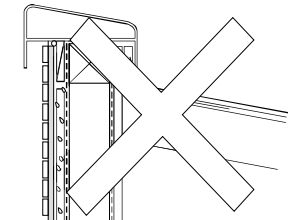
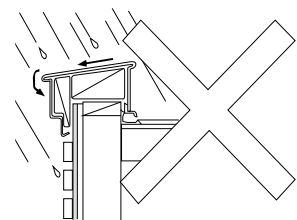
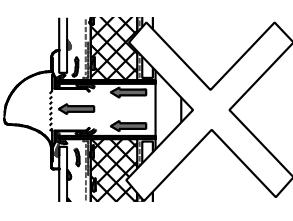
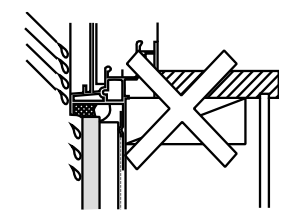
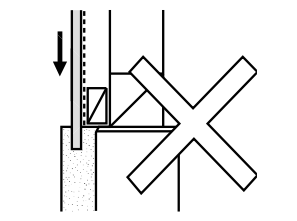
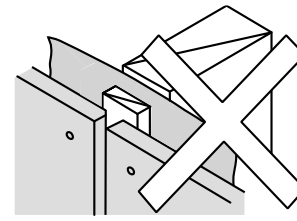
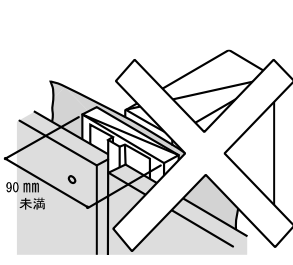
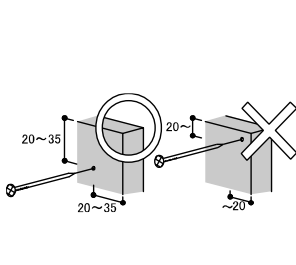
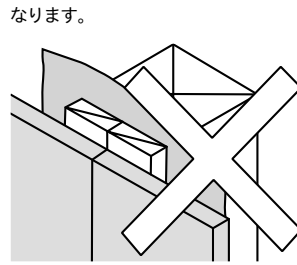
本マニュアルに沿って施工してください。

No.	名称	仕様	メーカー	寸法	厚さ	寒冷地	適用構造
1.	スタップ・ボード14N QM-0639	木質繊維混入セメント・けい酸カルシウム板	(株)アイコットリョーワ	455 x 3030	14mm	○	木造

1.4. 禁止事項

次のような部位での施工および使用はトラブルや事故の原因となるため禁止します。



<p>■ 鉄骨造への施工 下地サイディングの損傷や、タイル割れの原因となります。</p> 	<p>■ 耐火建築物への施工 耐火構造が要求される建物への施工はできません。</p> 	<p>■ 高さ 16m を超える建築物への施工 高さ 13m を超える部分へは施工できません。</p> 	<p>■ 煙突への施工 熱で下地の劣化、内部で発生した水分の染み出し、反り、凍害などの原因となります。</p> 
<p>■ 常時水のかかる場所への施工 水分・熱などの影響により、吸水乾燥環境に曝されるため、反り、凍害、強度低下、割れの原因となります。</p> 	<p>■ 傾斜のあるパラペットへの施工 屋根に近い過酷な環境に曝されるため、接着剤の劣化、凍害、雨漏りの原因となるので使用できません。</p> 	<p>■ 乱張り斜め張り施工 シーリングの施工不良や雨仕舞が悪くなり、雨漏りの原因となります。</p> 	<p>■ 上げ裏や天井への施工 板間の仕上材に掛かる応力を緩和できず、割れや剥離の原因となります。</p> 
<p>■ 裏面から雨のかかる塀などへの施工 裏面からの吸水や乾燥の繰り返しにより、反り、凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 透湿性の低い防水紙の使用 プラスチック系フィルム、ルーフィング材は透湿性が低いため、結露、凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 排気口のないパラペットの笠木 外壁通気構法にならないため、結露や凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 笠木の外勾配施工 雨水がタイル表面を多量に流れるため、汚れ、凍害などの原因となります。</p> 
<p>■ パネル施工後の換気口の施工 内挿形フードなどを取付けると、壁体内に湿気が入りやすいため、結露、雨漏り、凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 伝い水の原因となる設計施工 サッシ枠から排水が外壁表面を伝い、両端部のパネル表面が汚れます。</p> 	<p>■ 基礎部へのモルタル埋込み施工 毛細管現象により、パネルに多量の水分が吸収されるため、凍害、剥離、カビなどの原因となります。</p> 	<p>■ 胴縁幅 90 mm 未満での接合部の施工 金具の留付け幅が不足し、割れなどの原因となります。</p> 
<p>■ 間柱上での下地サイディングの接合 釘の留付けが胴縁のみとなり保持力がなくなるため、脱落、反りなどの原因となります。</p>  <p>90 mm 未満</p>	<p>■ 釘打ちの端あき寸法不足 下地への釘打ちが、端部から 20 mm 以下になると、割れ、欠け、脱落の原因となります。</p>  <p>20~35 20~35 20</p>	<p>■ 目地なし突付け施工 シーリングの充填量が不足し、雨漏りや凍害などの原因となります。建物の変形に追従できず剥離や脱落の原因となります。</p> 	

2. 構成部材

2.1. 構成部材一覧

A～Fの部材は、商品保証のために使用していただく必要のある部材です。

2.1.1. タイル下地工工事用構成部材

種類	品名	品番	仕様	メーカー	梱包数量	必要数	
A	入隅材	入隅 50 (50×50 L=3030)	JR1900	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーフ	5本/箱	0.33本/m
B	ジョイナー	ハットジョイナー03 (H=3 L=3030)	FH1003R	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーフ	10本/束	0.33本/m
		片ハットジョイナー03 (H=3 L=3030)	FHK1103R	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーフ	10本/束	0.33本/m
C	留付け材	リングネイル (φ2.5 L43mm)	JKT640	ステンレス SUS304	(株)アイコットリョーフ	550本/箱	10本/m ²
D	シーリング	POSシールLM (500ml/本)	SK-207	変成シリコン系	(株)アイコットリョーフ	20本/箱	0.3本/m
E	プライマー	プライマー	MP-1000	酢酸エチル系	(株)アイコットリョーフ	1缶/梱	-
	シーラー	防水シーラー (200ml/缶 1kg)	JF1403	特殊アクリル樹脂系	(株)アイコットリョーフ	1缶/梱	-
	土台水切り (防鼠)	土台水切り 40 (出幅 40 L3030)	FTD47**	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーフ	5本/箱	0.33本/m
	オーバーハング水切	オーバーハング水切り (出幅 60 L3030)	JOH72**	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーフ	4本/箱	0.33本/m
	L型通気材	32×27×12×1220 mm	FSK1000	ポリプロピレン	(株)アイコットリョーフ	10本/箱	0.82本/m
	透湿防水シート	透湿防水シートIII (1m x 50m)	JF4250A	ポリエチレンフィルム +不織布	(株)アイコットリョーフ	2本/箱	0.02本/m ²
	両面防水テープ	防水テープ 50巾 (50 x 20m)	JF1514	アクリル系	(株)アイコットリョーフ	10巻/箱	0.01本/m ²
F	専用基材	スタップ・ボード 14N (455×3030x t14)	WYHBASE14G	窯業系サイディング	(株)アイコットリョーフ	2枚/束	0.73枚/m ²

※ 必要数はロスを含まない参考値

2.1.2. タイル工事用構成部材

種類	品名	品番	仕様	メーカー	梱包数量	必要数
G	適用タイル	カタログ参照		(株)アイコットリョーフ	カタログ参照	
H-1	接着剤	スタップ・ジーエス (2kg/本)	STAP-GS**	変成シリコン系	(株)アイコットリョーフ	9本/箱
H-2		スタップ・ジーエス (2kg/本)低粘度	STAP-GLS**	変成シリコン系	(株)アイコットリョーフ	9本/箱
I-1	ジョイント テープ	ジョイントテープ 100 (20m/p t0.5)	9244-100	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーフ	8巻/箱
I-2		ジョイントテープ 150 (20m/p t0.5)	9244-150	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーフ	4巻/箱
I-3		ジョイントテープ 235 (20m/p t0.5)	9244-235	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーフ	4巻/箱
I-4		ジョイントテープ 300 (20m/p t0.5)	9244-300	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーフ	2巻/箱

必要数はタイルにより異なる

2.2. 構成部材姿図


2.2.1. タイル下地工工事用構成部材

種類	入隅材	シーリング材 (標準)	プライマー	シーラー
品名	捨て入隅	POSシールLM	プライマー (POSシールLM用)	防水シーラー
形状		 ディーブグレー		
品番	JR1900	SK-207	MP-1000	JF1403
用途	入隅部防水	板間シール	シーリング用プライマー	基材切断部吸水防止材
仕様	ガルバリウム鋼板	変成シリコン系	ウレタン系	アクリル樹脂系
入数	30本/箱	20本/箱	1缶/シール20本	1缶/梱
寸法・容量	L3030 W40+40	500ml	500g/缶	200ml/缶

種類	釘	ハット型ジョイナー		透湿防水シート
品名	リングネイル	ハット型ジョイナー	片ハット型ジョイナー	透湿防水シートⅢ
形状				
品番	JKT640	FH1003R	FHK1003R	JF4250A
用途	基材留付け	板間ジョイナー	開口部等ジョイナー	躯体防水
仕様	SUS304	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	不織布
入数	550本/箱	10本/束	20本/束	2本/箱
寸法・容量	L50 φ2.4	L3030 H4	L3030 H4	1m x 50m





種類	通気土台水切り			
品名	土台水切り (防鼠)	出隅	入隅	エンドキャップ
形状				
品番	FTD47--_1	FTD47--B	FTD47--D	FTD47--C
用途	基礎部水切り	基礎部水切り	基礎部水切り	基礎部水切り
仕様	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
入数	5本/梱	4ケ/梱	4ケ/梱	左右各1ケ/袋
寸法・容量	L3030	W60.5	W100	W25


種類	オーバーハング水切り			
品名	土台水切り (防鼠)	出隅	入隅	エンドキャップ
形状				
品番	JOH72--	JOH72--B	JOH72--D	JOH72--C
用途	オーバーハング水切り	オーバーハング水切り	オーバーハング水切り	オーバーハング水切り
仕様	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
入数	4本/梱	2ケ/梱	2ケ/梱	左右各1ケ/袋
寸法・容量	L3030	W60.5	W100	W25

種類	オーバーハング水切り	通気材	防水テープ
品名	接合部	L型通気材	両面防水テープ
形状			
品番	JOH72--S	FSK1000	JF1514
用途	オーバーハング水切り	土台部水切り材	開口部等防水
仕様	ガルバリウム鋼板	ポリプロピレン	アクリル系
入数	1ヶ/袋	10本/箱	1巻/箱
寸法・容量	W25	L1220	20m/巻 W50

2.2.2. タイル工事中用構成部材

名称	弾性接着剤		保護剤	タッチアップ剤
品名	スタップ・ジーエス	スタップ・ジーLエス	フェイスコート	タッチアップ剤 (溶剤形)
形状				
品番	STAP-GS/Gr Wh	STAP-GLS/Gr	SIZAI FACE	SIZAI TOUC
用途	タイル用接着剤	タイル用接着剤 (軽量)	タイル切断面保護剤	タイル切断面タッチアップ剤
仕様	変成シリコン系	変成シリコン系	シリコン系溶剤	アクリルシリコン樹脂 (溶剤形)
入数	9本/箱	9本/箱	1缶/梱	1缶/梱
容量	2kg/本	2kg/本	50CC/缶	50ml/缶

名称	ジョイントテープ			
品名	ジョイントテープ100	ジョイントテープ150	ジョイントテープ235	ジョイントテープ300
形状				
品番	9244-100	9244-150	9244-235	9244-300
用途	タイル最大幅100mm以下	タイル最大幅150mm以下	タイル最大幅235mm以下	タイル最大幅300mm以下
仕様	ブチルゴム系	ブチルゴム系	ブチルゴム系	ブチルゴム系
入数	8巻/箱	4巻/箱	4巻/箱	2巻/箱
容量	20m/巻	20m/巻	20m/巻	20m/巻

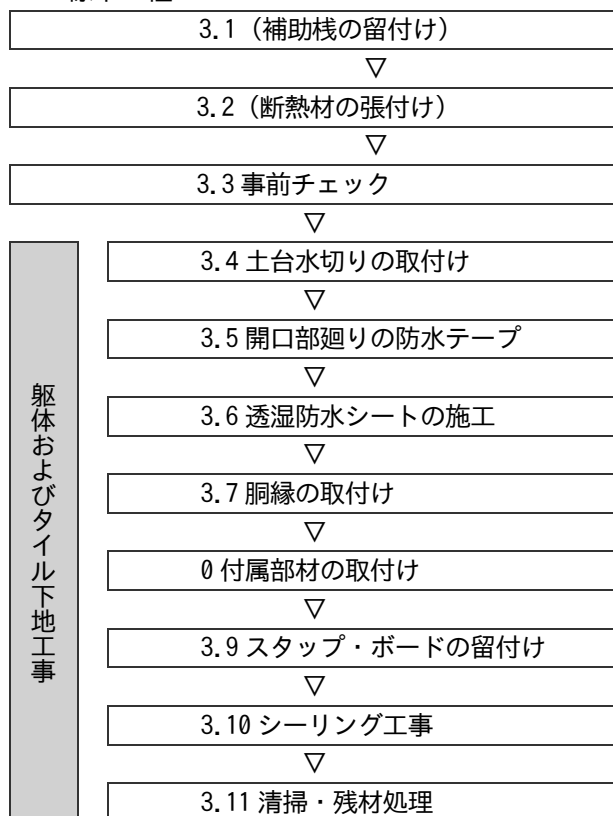
名称	目地材
品名	ブリックマスター
形状	
品番	IC-***
用途	目地材
仕様	既成調合モルタル
入数	25kg/袋
容量	-

2.4. 工具

名称	接着剤塗布		タイル切断	充填工具
品名	3 mmクシ目コテ	5 mmクシ目コテ	ダイヤモンドホイール	クリーンパックガン
形状				
品番	STAP KSK3	STAP KSK5	STAP DW-106	STAP CG
用途	接着剤塗布	接着剤塗布	タイル切断	シーリング充填
仕様	ステンレス	ステンレス	ダイヤモンドホイール	-
入数	1 丁/梱	1 丁/梱	1 枚/梱	1 丁/梱
容量	210 x 70	210 x 70	φ 100	スペアノズル2ヶ同梱

3. タイル下地工事施工手順

■ 標準工程



3.1. 補助棧の留付け

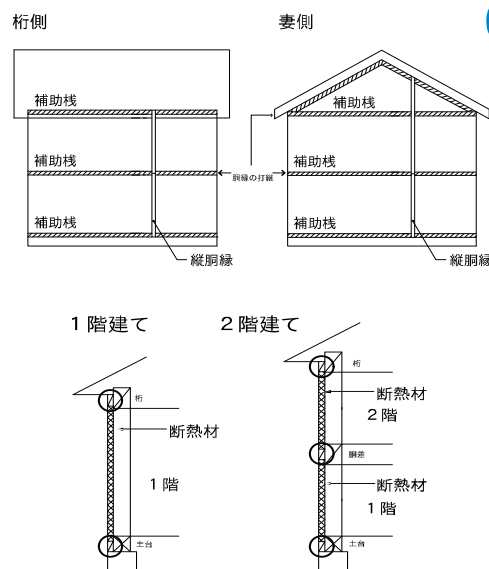
下地サイディング工事業者の施工対象範囲外となります。

3.1.1. 材料

- ・ 米松、米桐など同等樹種をしてください。

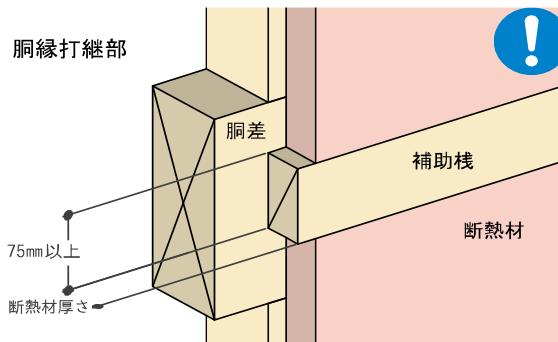
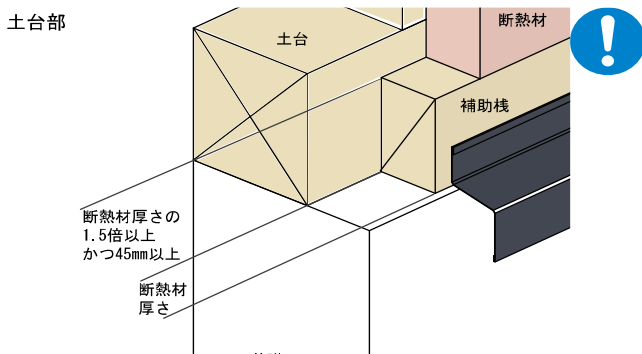
3.1.2. 設置場所

- ・ 1階建て平屋の場合は、土台と小屋組み桁
- ・ 妻部2階建ての場合は、土台と胴差と小屋組み桁
妻部その他部位、開口部、下屋、跳ね出しバルコニーなど



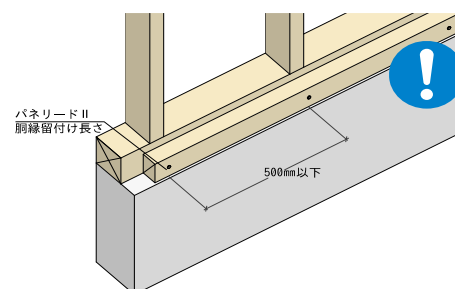
3.1.3. 補助棧の寸法

- ・ 厚さ (断熱材厚さ) x 幅 断熱材厚さ1.5倍以上、かつ45mm以上 (胴縁打継部は、上記材料ダブルか75mm以上としてください。)



3.1.4. 補助棧の留付け

- ・ 胴縁留付けビスと同じサイズのパネリードII+ビスを使用してください。
- ・ 留付け間隔は500mm以下 (胴縁間隔以下) としてください。



3.2. 断熱材の張付け

断熱材の張付けや気密テープの施工は、断熱材メーカーの仕様に合わせてください。

3.3. 事前チェック

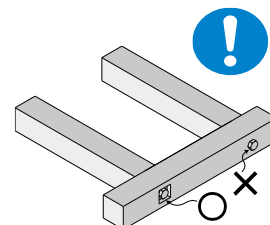
躯体およびタイル下地サイディング工事は、次工程であるタイル工事の仕上がりりと性能に影響があります。下記要領で構造躯体およびタイル下地サイディング工事が行われるように、関係者で事前に打ち合わせを行ってください。

3.3.1. 構造体の下地の確認

仕上がりを美しくするには、下地精度が大きな決め手となりますので、段差の無いように施工してください。

3.3.1.1. 木造軸組工法

- ・ 間柱は、30×105mm 以上が使用され、柱・間柱の間隔は芯々500mm 以下で取り付けられていることを確認してください。間柱が入っていないと胴縁やタイル下地サイディングの留付けが確保できません。
- ・ 柱、間柱、桁、胴縁は外面合わせにして凹凸の無いことを確認してください。
- ・ 不陸限度の目安として、柱・間柱の目通りを3mm 以内であることを確認してください。
- ・ 入隅部などで、胴縁を留付ける部分に下地があることを確認してください。
下地が無い場合には、補助材や添え木を設けて胴縁の留付けができるようにしてください。
- ・ ボルト頭類は座掘りして納めてあるか確認してください。



3.3.1.2. 枠組壁工法

- ・ 構造用合板は厚さ9mm 以上が使用されているか確認してください。構造用合板および大臣認定品以外は使用できません。
- ・ 構造材は乾燥材が使用されているか確認してください。
- ・ 下地・構造用合板等は不陸や段差の無いことを確認してください。出隅・入隅・軒天部等の下地、構造用合板の突き付け部は、片方の構造用合板が突き出さないように施工されていることを確認してください。
- ・ スタッド(芯材)の間隔は芯々500mm 以下であることを確認してください。
- ・ 入隅部などで、胴縁を留付ける部分にスタッド(芯材)がない場合には、補助材や添え木を設けて胴縁の留付けが構造用合板のみとならないようにしてください。
- ・ ボルト頭類は座掘りして納めてあるか確認してください。
- ・ 枠組壁工法では、帯金物の湾曲を抑えるために屋根施工後できる限り期間をあげ、外壁工事直前に帯金物を取り付けるようにしてください。

3.3.2. サッシおよび開口部の確認

- ・ サッシの位置、規格に変更が無いか確認してください。
- ・ サッシおよびサッシ水切り金物の取付けが完了しているか確認してください。
- ・ 内付けサッシでは、スタップ・ボードの小口処理ができず、施工できませんので、使用しないでください。
- ・ 妻換気ガラリ、レジスターフード他、先付け設備器具の取付けが完了しているか確認してください。

3.3.3. 板金工事の確認

- ・ 屋根とスタップ・ボードとの取合い部は、仕様通りになっているか確認してください。
- ・ 出窓、庇、下屋等とスタップ・ボードとの取合い部は、仕様通りになっているか確認してください。

3.3.4. 材料の確認

- ・ 仕様通りの材料が必要量納入されているか確認してください。
- ・ 仕様通りの専用付属品が必要量納入されているか確認してください。
- ・ 材料の養生がされているか確認してください。
- ・ 材料集積場所および養生方法の打合せがされているか確認してください。

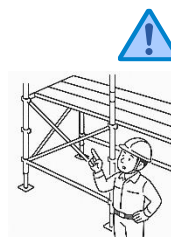
3.3.5. 安全工事の確認

- ・ 現場の安全管理規定を守ってください。
- ・ 作業員は正しい服装をし、定められた保護具（ヘルメット等）を正しく着用してください。
- ・ 作業終了時の後片付け、整理整頓を確実に行ってください。
- ・ 1日の作業量を考えて、足場に上げた材料を使いきり、翌日に残さないでください。
- ・ 風などによる落下防止の対策を毎日確認してください。
- ・ 火災予防に気を付けてください。



3.3.6. 作業足場の確認

- ・ 足場の安全状態を確認してください。
- ・ 作業の為にはずした筋かい、足場、控え等は、作業後速やかに元の場所に戻してください。



3.3.7. その他の確認

- ・ 基準墨出しがされているか確認してください。
- ・ 残材処理方法（1カ所集積等）は決定しているか確認してください。

3.4. 土台水切りの取付け

3.4.1. 材料

- ・ 土台水切り : FTD47-1
- ・ 壁面仕上り厚さを考慮した形状を選定してください。

3.4.2. 工事

- ・ 水平基準墨に従って、土台部に水切りを取付けてください。
- ・ スタッブ・ボードと土台水切りの取合いは、10～15mmのすき間を設けてください。

3.5. 開口部廻りの防水テープ張り

3.5.1. 材料

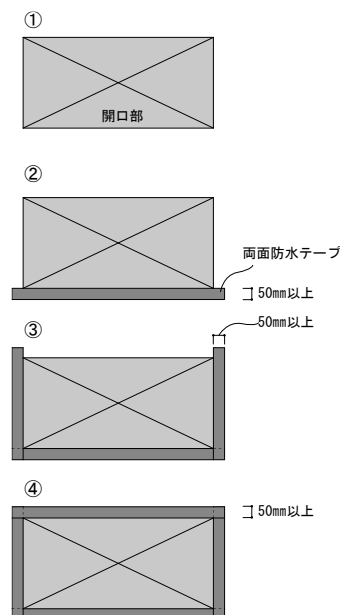
- ・ 防水テープ : JF1514
- または、NYG協会推奨の幅50mm以上の両面防水テープ

3.5.2. 工事

- ・ 防水テープを右図の番号順にサッシのツバと躯体に張り付けてください。
- ・ サッシのツバと透湿防水シートの取り合い部から雨水の浸入の無いよう、隙間が出来ないように十分に透湿防水シートを圧着してください。
- ・ 下地は段差、隙間、突起物の無いように仕上げてください。
- ・ 接着を妨げるほこり、油染み等は必ず拭き取ってください。

3.5.3. ポイント

- ・ 先張り防水シートが有る場合には、先張り防水シートの下に透湿防水シートをさしこんでください。(その際は防水テープは不要です)
- ・ 下地への接着面の離型紙のみを剥がし、上図順序(両側→上部)にてゴムローラーで十分に転圧しながら張り付けてください。また、テープジョイント部は、先張りテープが後張りテープより突出しないよう施工してください。
- ・ 表面の離型紙は透湿防水シート施工の直前まで絶対に剥がさないでください。なお、透湿防水シートはテープ張り付け後7日以内に施工してください。
- ・ 透湿防水シート施工後も空気の巻き込みがないよう、よく圧縮してください。



3.6. 透湿防水シートの施工

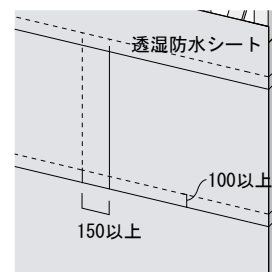
スタッブ・ボードは正しい施工を行うことにより一次防水の機能がありますが、多量の降雨に強風が加わるような条件下では、多少の雨水の浸入は避けられません。従って、二次防水として透湿防水シート、防水テープの正しい施工を必ず行ってください。

3.6.1. 材料

- ・ 透湿防水シート : 透湿防水シートIII (1m x 50m)
- ※ 透湿性の低いプラスチック系フィルムは、内部結露を起こしやすいので使用しないでください。

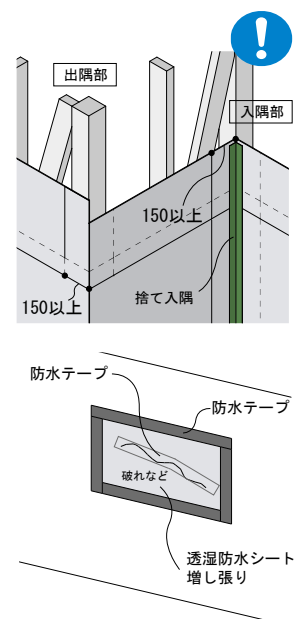
3.6.2. 工事

- ・ 透湿防水シートを張る前に、サッシ枠と透湿防水シートを密着させるため、開口部廻りや換気口廻りなどに防水テープを張ってください。
- ・ 張り方は横張りとし、下から張り上げ、重なりは上下100mm以上、左右150mm以上としてください。面材等が無い場合には、左右の重なり部は必ず柱・間柱のある位置に留めてください。
- ・ 出入隅部は、重ねを左右150mm以上ずつとし、2重張りしてください。(約300mm以上の重ね張り)
- ・ 耐力壁がない場合は、入隅部では両隣の柱(間柱)があるところに留め、出隅部では両方向とも柱幅程度重ねて留めてください。なお、出隅部は通し張りとする事もできます。
- ・ 土台水切り、中間水切り、屋根雨押え水切り部位には透湿防水シートを水切り留付け上部にかぶせてください。(水切り立ち上がり寸法の半分程度)



3.6.4. ポイント

- ・透湿防水シートはたるみの無いように張ってください。
- ・万一破れた場合は、その箇所から雨水等が入り込まないように透湿防水シートを重ね張りして補修するか、透湿防水シートを張り直してください。
- ・メーカーで薬剤処理された胴縁を使用する場合には、十分に乾燥していることを確認の上、使用してください。
- ・現場で薬剤処理をおこなう場合には、必ず胴縁を施工する前に防腐剤・防蟻剤を塗布し、よく乾燥させてから使用してください。
- ・胴縁施工後に防腐剤、防蟻剤を塗布すると透湿防水シートに付着し、透湿防水シートの性能を損ないますので、胴縁は必ず施工前によく乾燥させてから使用してください。
- ・上記同様に土台・柱などの構造躯体の防腐・防蟻処理も、透湿防水シートを張る前に塗布し、良く乾燥していることを確認してから透湿防水シートを施工してください。
- ・胴縁施工後は、速やかにスタップ・ボードの施工を完了し、雨水や夜露などで胴縁を濡らさないように注意してください。



3.7. 胴縁の取付け

断熱材の厚さにより、以下の推奨ビスを検討してください。下表は重量目安のため、実際のシステム構成を確認の上、十分な保持力のあるビスをご検討ください。タイル重量は、P. 適用タイルリスト (2025.2. 時点) のタイル重量を参照してください。

断熱材厚さ	パネリードII+仕様	胴縁留付ピッチ	外壁重量 (kg/m ²)				
			合計	タイル	接着剤	下地材	胴縁材
30 mm以下	φ 6 x 100 mm	300	45 以下	23.0 以下	2.0	19.0 ※ スタップ・ボード 14	1.0
		250	49 以下	27.0 以下	2.0		
		200	55 以下	32.5 以下	2.5		
40 mm以下	φ 6 x 110 mm	300	45 以下	23.0 以下	2.0		
		250	49 以下	27.0 以下	2.0		
		200	55 以下	32.5 以下	2.5		
50 mm以下	φ 6 x 120 mm	300	45 以下	23.0 以下	2.0		
		250	49 以下	27.0 以下	2.0		
		200	55 以下	32.5 以下	2.5		

パネリードII+についてのお問合せ先：シネジック株式会社 022-351-7330

- ・胴縁の上下端は、必ず補助桟へ留め付けてください。
- ・補助桟に胴縁の上下端がビス留めされていない下地には施工しないでください。

3.7.1. 材料

- ・胴縁は釘の保持力確保のため、18mm×45mm以上のものを使用してください。
- ・ただし、釘の保持力が確保できる材質（べいつが、べいまつ、とどまつ、まつ等）の場合は、15mm以上とすることができます。

3.7.2. 工事

- ・胴縁を長さ65mm以上のステンレスくぎ（現調）、鉄丸くぎ（現調）、またはφ3.8 x 50mm以上のステンレス木ビス（現調）を500mm以内の間隔で柱・間柱に留め付けてください。
- ・左右接合部、出・入隅部、開口部の胴縁は、スタップ・ボード施工時の釘の端打ち寸法確保及び安定のため、ダブル幅（90mm以上）になるよう下地組を行ってください。
- ・タイルの仕上がりが外観は、下地の状態に大きく左右されます。下地の不陸・突出物を調整してから施工してください。

3.7.3. ポイント

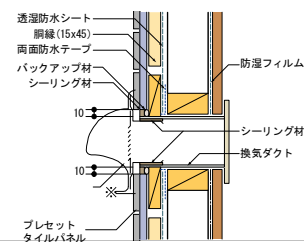
- ・胴縁は良く乾燥し、ねじれない平坦なものを使用してください。
- ・胴縁は防腐処理材またはヒノキなど防虫効果があるものを使用してください。また、十分に乾燥していることを確認してから使用してください。
- ・積雪地域では、補強のため雪の積もる高さまで補強用胴縁を胴縁の間に取付けてください（2階下屋部分も同様としてください）
- ・スタップ・ボードが開口部の上下で、割り付け幅9mm以下となる場合は、補強胴縁を取付けてください。
- ・木造枠組工法で、帯金物と胴縁が干渉する取合いは、帯金物を避けて胴縁を留付けてください。留付けは、φ3.8 x 50mm以上のステンレス木ビスで、構造用合板に留付けてください。

3.8. 付属部材の取付け

3.8.1. 換気口廻り

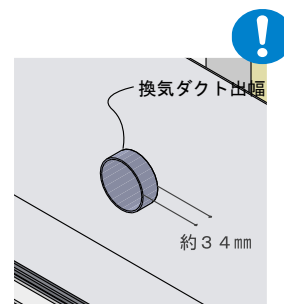
■ 外挿形

- ・換気フードは、スタップ・ボード施工前に取付けてください。
- ・スタップ・ボードの施工後に取付けると壁体内に湿気が侵入する構造になりやすく、結露などの問題を引き起こすことになります。
- ・換気フード内では結露が発生しやすくなっていますので、結露水が壁体内に漏水しないようスリーブの継ぎ手の防水は完全に処理してください。
- ・フードとスタップ・ボードのすき間は10 mm以上あげシーリング工事してください。また、排気口とタイルの仕上げ面から30 mm程度離してください。



■ 内挿形

- ・内挿型の丸型換気フードを使用する場合は、換気口の下部より結露水が流れ出し、外壁表面に伝うことがあります。汚れや劣化の原因となりますので、水切り等を取付け、外壁表面より30 mm程度あけるようにしてください。
- ・結露水がサイディング下地裏面に廻らないように、鞞管外周にシールを盛り、フードパイプを挿入してください。
- ・本書に合わせて、NPO 法人住宅外装テクニカルセンター「換気口周辺の防水施工マニュアル」を合わせて参考にしてください。



3.8.2. 設備機器や看板などの取付け

- ・設備機器等の取付けは補強材をあらかじめ施工し、その補強材に取付けてください。

3.9. スタップ・ボードの留付け（切断）

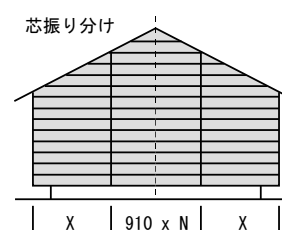
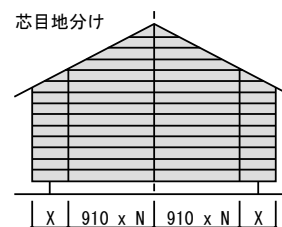
3.9.1. 材料

- ・専用下地材：スタップ・ボード14N
- ・専用留付け材：リングネイル（JKT640）

3.9.2. 工事

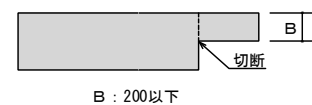
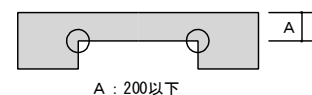
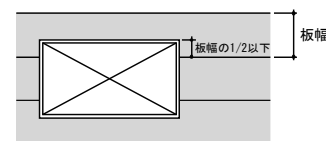
3.9.2.1. スタップ・ボードの割付

- ・建物全体のバランスと材料ロスを考えて割り付けてください。
- ・開口部廻りや軒天部などで、スタップ・ボードを上下で切断する場合は、小幅物が発生しますので設計に留意してください。
- ・高さ方向の割付は、土台水切りを基準としてください。



3.9.2.2. スタップ・ボードの小幅物・切断部

- ・複雑な小幅物ができると、施工能率が悪くなり雨仕舞いも不完全になるため、割り付けに注意してください。
- ・スタップ・ボードは、小幅物になると折れやすくなるので、100mm以下の割り付けは避けてください。
- ・100mm以下の小幅物スタップ・ボードの場合は、折れないように取り扱いに注意すると共に、必ずドリルで下穴を開けてから釘留めしてください。
- ・100mm以下の切り欠きがある場合は、あらかじめ切断して張り上げ、目透しシーリング処理をしてください。その際、切断して張る箇所には必ず下地を入れてください。
- ・開口部廻りの切り欠き部が、板幅の2分の1以下になるようにしてください。板幅の2分の1以下の場合、標準の作業で施工できますが先穴をあけてから釘打ちしてください。

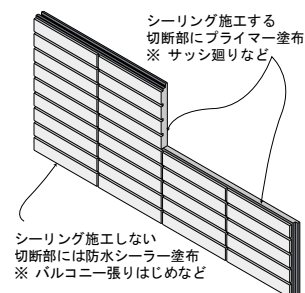


3.9.2.3. スタップ・ボードの小口処理

- ・シーリング施工をしない小口および切断小口には必ず防水シーラーを充分塗布してください。
- ・基礎部 小口面
- ・下屋根部小口面
- ・その他 小口面（例：オーバーハング部、中間水切り部）

3.9.2.4. スタップ・ボードの取付け

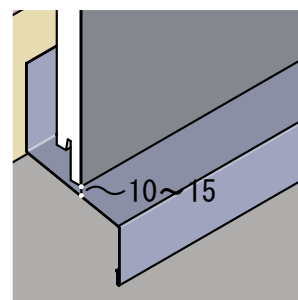
- ・スタップ・ボードの取付けは水平レベルを確認してから行ってください。
- ・釘の留め付けは、胴縁のある位置で留め付けてください。
- ・長さ方向に対して500mm以下
- ・釘の端開き寸法は20～35mmとしてください。また、表面の欠けの発生などを避けるため先穴加工後、釘留めしてください。
- ・面精度は±1.0mm / 2m 出入り未満としてください。
- ・留付けが構造用面材のみとなる場合は、ビス（珪素）を使用してください。



3.9.2.5. ポイント

■ 基礎廻り

- ・ 水平墨出しを行い、土台水切りを取付けてください。その後、透湿防水シートを土台水切りの立ち上がりにかぶせて張ってください。
- ・ スタッブ・ボードの下端は、毛細管現象の防止、結露水の排出、及び躯体の荷重による変位吸収のため、10～15mm程度の隙間を開けて施工してください。
- ・ 土台水切りとスタッブ・ボードの小口はシーリング材等でふさがらないでください。

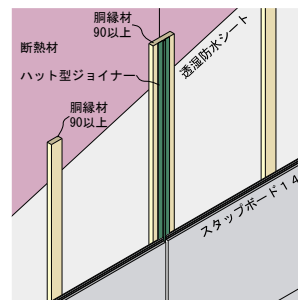


■ 一般部

- ・ 縦目地の位置には、ハット型ジョイナーを取付けて、目地幅10mmを確保してください。

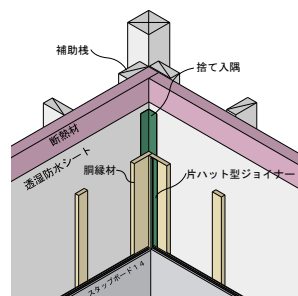
■ 出隅部

- ・ 適切な目地幅確保のため、必ずハット型ジョイナーを使用してください。
- ・ 出隅部は、右図のようにスタッブ・ボードを胴縁の外側まで施工し、片ハット型ジョイナーを取り付けて10mmの目地幅を確保してください。
- ・ スタッブ・ボード勝ち側小口は、負け面同一以下とし、突出しないようご注意ください。
- ・ 釘の留付け位置は、柱寸法および胴縁位置を考慮した位置としてください。
- ・ 出隅部の下地胴縁は耐衝撃性を確保するために必ず縦胴縁を使用してください。



■ 入隅部

- ・ 躯体の振動などによるスタッブ・ボードの横ズレ防止のため、必ずハット型ジョイナーを使用してください。
- ・ 入隅部では柱に補助棧を使用し、縦胴縁と捨て入隅を取付けた後、スタッブ・ボードを確実に取付けてください。
- ・ 入隅部では片ハット型ジョイナーを取付けて10mmの目地幅を確保してください。
- ・ 入隅部は特に風雨が集まりやすくなります。防水紙（コーナー左右100mmの重ね）やシーリング材など雨仕舞いには十分注意してください。



■ 軒天部

- ・ 最上部のスタッブ・ボードは、割付に合わせて切断し、胴縁およびスペーサーを取付け、釘の端あきを20～35mm程度確保し留め付けてください。

■ 開口部（縦断面）

- ・ サッシ廻りではシーリング材の目地幅10mmをあけて施工してください。釘留めをする際には、スタッブ・ボード端部から20～35mmの位置に先穴をあけてから釘留めしてください。

■ 開口部（横断面）

- ・ 開口部の縦枠とスタッブ・ボード本体の取り合いでは、片ハット型ジョイナーを使用して(スタッブ・ボードの横ズレ防止のため)、目地幅10mmを確保してください。スタッブ・ボードを突き付けの三角シーリングは行わないでください。

■ オーバーハング部

- ・ スタッブ・ボードとオーバーハング部用水切りの間は10～15mmあけてください。また、入隅部の端から50mm程度シーリング材を施工してください。
- ・ 割付において、スタッブ・ボードを切断した場合は、切断小口に防水シーラーを十分に塗布してください。釘留めをする際には、スタッブ・ボード端部から20～35mmの位置に先穴をあけてから釘留めしてください。
- ・ シーリング施工を行う箇所には必ずシーリング専用プライマーを塗布してください。縦目地部、小口面開口部、換気口廻り小口面軒天、出隅、入隅など。

3.10. シーリング工事

3.10.1. 材料

- ・シーリング材：POSシールLM（専用プライマー：MP-1000）
- ・ジョイナー：ハット型ジョイナー（FH1003R）、片ハットジョイナー（FHK1003R）
- ・充填工具：クリーンパックガン（STAP CG）

3.10.2. 工事

3.10.2.1. 事前確認

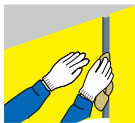
- ・シーリング材打設部分の目地幅が、約10mm確保されているか確認してください。
- ・養生テープにガムテープなどの粘着性の強いテープは、化粧面の剥離や、粘着材が残ったりしますので使用しないでください。

3.10.2.2. 施工前の天候確認

- ・シーリング材の工事は晴天の日に行ってください。
- ・前日が雨や雪の場合は、被着面が十分に乾燥している状態を確認の上、施工してください。
- ・外気温が5℃以下、または被着面の温度が50℃以上の場合、マスキングテープの粘着異常、シーリング材の硬化不良や発泡などの不具合が起きるので施工を中止してください。
- ・万一天候が悪い場合は、作業を中止してください。

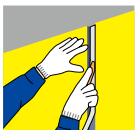
3.10.2.3. 被着面の清掃

- ・被着面のゴミ、油分、水分はハケや布で除去した後、拭き取ってください。
- ・被着面のゴミ、油分、水分は、シーリング材の接着不良になります。



3.10.2.4. バックアップ材またはボンドブレイカーの充填

- ・目地幅は10mm以上、目地深さは8～10mm程度確保してください。
- ・シーリング材の伸縮自在性を確保するため、3面接着を防止できる専用ハット型ジョイナーを使用するか、目地幅にあったバックアップ材、またはボンドブレイカー（剥離テープ）付きハット型ジョイナーを使用し、正しく施工してください。
- ・開口部、軒天部等、他部材との取り合い部の目地には、バックアップ材を充填して、3面接着を防止し目地深さを確保してください。!



3.10.2.5. マスキング養生テープ張り

- ・目地の両側に沿ってマスキングテープを張ってください。この時シーリング材がスタップ・ボード表面にはみ出さない様、端からきちんと注意して張ってください。スタップ・ボード表面にはみ出すと、不陸の原因となりますので、注意してください。
- ・マスキングテープを張り付けて長時間放置すると、スタップ・ボード表面を損傷することがありますので、張り付け後2日以内でシーリング材が硬化しないうちに剥がしてください。
- ・マスキングテープは粗面用を使用し、ガムテープなどの粘着性の強いテープの使用は避けてください。



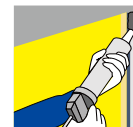
3.10.2.6. プライマー塗布

- ・プライマーは、適切な刷毛（同梱）を使用し、塗り残しの無いよう均一に確実に塗布してください。シーリング材と同梱のプライマーは、シーリング材本数に見合うロス込みの必要量です。残さずに全量を使い切ってください。
- ・プライマーの塗布後30分以上6時間以内にシーリング材を施工してください。
- ・被着面以外には、プライマーが付着しないように注意してください。
- ・プライマー塗布忘れは、シーリング材の接着不良になります。



3.10.2.7. シーリング材の充填

- ・目地幅に合わせたノズルで気泡、打ち残し、隙間なく目地の隅々まで盛り上げるようにシーリング材を充填してください。盛り上りが不足すると、接着充填不良になりますので注意してください。



3.10.2.8. ヘラ押え

- ・ヘラなどを用い、シーリング材を押し込むようにして表面を平滑にしてください。
- ・ヘラ押えは、シーリング材表面が硬化する前に行い、充填後30分以内が目安となります。
- ・ヘラ押えをしないと接着充填不良になりますので、注意してください。



3.10.2.9. マスキングテープ剥がし

- ・シーリング材が硬化しない間に、マスキングテープを速やかに棒切れ板などに巻き付けながら剥がしてください。
- ・マスキングテープ上にはみ出したシーリング材が、スタップ・ボード表面に付着しない様に注意して行ってください。
- ・シーリング材が完全に硬化しないうちに、振動や衝撃を与えないでください。



3.10.2.10. 清掃

- ・マスキングテープの糊、充填箇所以外に付着したシーリング材及びプライマーは拭き取ってください。

3.10.2.11. 仕上りのチェック

- ・施工目地幅よりはみ出したシーリング材や、板表面に付着したシーリング材をそのまま放置すると、タイル面の不密原因となりますので完全に除去してください。
- ・充填作業終了後、目視にてシーリング材の打残し、表面の凹凸気泡などの仕上り状態をチェックしてください。
- ・各工程、仕上り状態など、工事チェックリストを用いて確認しながら施工してください。

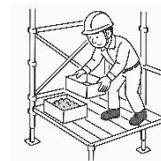
3.11. 清掃・残材処理

3.11.1. 清掃

外装の施工箇所だけでなく、足場や基礎廻りなどの清掃を行ってください。

3.11.2. 残材処理

- ・ 残材は指定場所に処理ください。
- ・ 各自治体の廃棄区分に従ってください。



4. タイル張り工事

本章では有機系弾性接着剤によるタイル張りを示します。また、タイル張りに先立ち有機系下地調整塗材による下地調整を解説します。詳細は、窯業系サイディング製造者に確認を取るとともに、乾式外壁工事（JASS27）に適合した工事の計画・施工を実施してください。

■ 標準工程

タイル張り工事	4.1 下地のチェック
	▽
	4.2 板間処理
	▽
	4.3 不陸調整
	▽
	4.4 タイルの割付け
	▽
	4.5 墨出し
	▽
4.6 タイル張り	
▽	
4.7 (紙剥がし・目地詰め)	
▽	
4.8 洗浄	
▽	
4.9 付属部材 (化粧)	
▽	
4.10 検査 (4.11 補修)	

4.1. タイル下地サイディングのチェック

4.1.1. 工事

- ・タイルの仕上がり精度は、下地の精度に影響されるため、2mスパンで±1.0mm以内を確認します。
- ・下地面の状態が、タイル張りを行うのに不適切であると判断される場合には、現場管理者に報告し、適切な処置をしてから次工程の工事を行ってください。
- ・ジョイントテープおよび接着剤の接着を阻害する
- ・ほこり、切粉などの汚れ、不陸の原因となるシーリングのみ出し等がないか確認し、ある場合はこれらを除去してください。
- ・水濡れがある場合は、ジョイントテープおよび接着剤の接着を阻害するため、乾燥してから施工してください。



4.1.2. ポイント

- ・タイル面の不陸や反りの発生、接着不良などが起こる可能性がありますので、指定の下地・釘・ビスが使用されているか、釘・ビスの本数および適切かについて確認してください。
- ・下地表面に有機系塗料などが付着していると、接着剤に染み出しが生じる場合がありますので必ず除去してください。

4.2. 板間処理 (ジョイントテープ貼り)

4.2.1. ジョイントテープの効果

下地材継ぎ手部は、応力が集中する箇所です。ジョイントテープはその応力を緩衝し、タイルクラックなどの発生を防止するために貼付施工します。

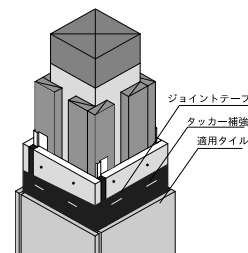
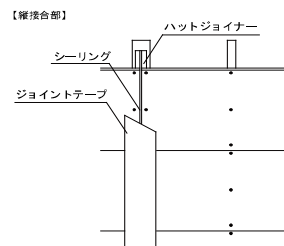
4.2.2. 材料

- ・ジョイントテープは、使用するタイルの長さより広い幅のテープを使用してください。(右表参照)
- ・出隅部で平役物を使用する場合も、出隅部のジョイントテープは必要となります。

タイル長辺最大	縦接合部/出隅部		
	テープ幅	品名	品番
100 mm以下	100 mm	ジョイントテープ100	9244-100
150 mm以下	150 mm	ジョイントテープ150	9244-150
235 mm以下	235 mm	ジョイントテープ235	9244-235
300 mm以下	300 mm	ジョイントテープ300	9244-300

4.2.3. 工事

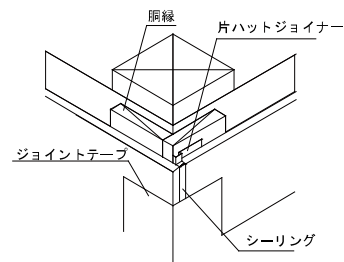
- ・ジョイントテープは、サイディングの縦ジョイント部、出隅部に貼り付けます。
- ・出隅部では、ジョイントテープを中央で折り返して貼り付けてください。
- ・タイルの最大長さがジョイントテープの幅を超える場合には、左右どちらかにジョイントテープを増し貼りし、タイルがジョイントテープをまたがないようにしてください。
- ・通し目地などでタイルがジョイントテープに全て乗った状態になる場合は、ジョイントテープのズレおよび剥離防止のために、タッカー、ビスまたはタイル張り用接着剤で補強してください。
- ・タイルを縦張りで使用し、タイル下地サイディングの上下合じゃくり部に掛かる場合には、その部分にもジョイントテープを貼り付けてください。
- ・ジョイントテープにタイルが全て乗った状態になる場合は、タッカー、ビスまたはタイル張り用接着剤で補強してください。
- ・柱型などのように、タイルを張付ける面全てがジョイントテープで覆われる場合は、タッカー・ビスまたはタイル張り用接着剤でジョイントテープを補強します。



4.2.4. ポイント

- ・ ジョイントテープの貼り付けは、下地およびシーリング部分とジョイントテープをしっかりと密着させて貼り付けます。
- ・ 特にジョイントテープの縁端部はしっかりと押えてください。
- ・ このとき、空気の巻き込みや、シワにならないように注意してください。シワになった部分は、新しいジョイントテープで再施工してください。
- ・ 貼り付け時の押さえ方が不十分な場合には、段差や剥がれの原因となります。
- ・ 重ね貼りすると、テープが剥がれたり段差が発生したり仕上がりに影響する場合があります。
- ・ 一度剥がれたジョイントテープは粘着力が低下するため、再使用しないでください。

【空目地】



4.3. 不陸調整

タイルの仕上がりに影響するような不陸は、接着剤スタップ・ジーエスを塗付けて不陸の調整を行ってください。

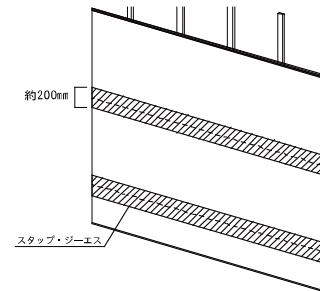
【水平接合部の不陸調整】

4.3.1. 材料

- ・ 接着剤：スタップ・ジーエス
- ・ 張付け接着剤と同じ色で不陸調整を行ってください。

4.3.2. 工事

- ・ 不陸調整を行った場合は、不陸調整のために塗付けた接着剤が硬化した後に、接着剤の塗布とタイル張りを行ってください。
- ・ 塗り重ねる場合は、スタップ・ジーエス硬化後に行ってください。



4.4. タイルの割付け

4.4.1. 工事

- ・ 開口部廻り、出隅部、入隅部、換気扇廻り、樋受け金物の位置等に注意して小さな切り物が入らないように割付けてください。
- ・ タイルの目地幅は適正に設定し、突付け目地としないでください。

4.5. タイルの墨出し

- ・ タイルの割付けに従って、墨出しを行ってください。
- ※ 油性マジックなどは使用しないでください。接着剤に染み出しが生じます。

4.6. タイル張り

4.6.1. 材料

- ・ 接着剤：スタップ・ジーエス、スタップ・ジーLエス
- ・ タイル：適用タイル
- ・ スタップ・ジーエスは、使用するタイルによって、塗布の仕方・使用量が異なります。適切に塗布してください。塗布量の目安を以下に示しますので、監理の参考にしてください。

タイルの種類	標準使用量の目安	コテ種類	塗布方法
裏ネットユニット L Jユニットなど	1.5~1.9 kg/m ²	3mmクシ目コテ	クシ目
表紙ユニット	2.0~2.5 kg/m ²	5mmクシ目コテ	平押え
二丁掛け・ボーダー	2.0~2.5 kg/m ²	5mmクシ目コテ	平押え
J Jユニット	2.0~2.5 kg/m ²	5mmクシ目コテ	クシ目

4.6.2. ポイント

接着剤は2種類あります。以下に違いを示しますので、目地仕様・施工性を判断して使い分けてください。

名称	姿図	包装	カラーバリエーション	特徴
スタップ・ジーエス		ブルー	グレー ホワイト	Q-CAT区分Y1認定を取得しており、タイル区分T1~3のタイルに対応します。また、空目地施工は、グレーまたはホワイトの選択ができます（裏ネットユニットはグレー目地のみとなります）。
スタップ・ジーLエス		オレンジ	グレー	上記より柔らかいため、塗布作業性が向上します。Q-CAT区分Y2認定を取得していますので、タイル区分T2~3までのタイルに対応します。重量タイルには注意が必要です。

4.6.3. 工事

4.6.3.1. 接着剤の塗布

- ・ スタッブ・ジーエスを下地に塗り付けた後、かき取るようにしてくし目を立ててください。
- ・ かき取りはコテを下地面に対し45°~60°程度に傾けて下地が透けないようにかき取ってください。
- ・ タイル下地サイディングの水平ジョイント部の溝部分には、スタッブ・ジーエスを塗り込んでください。



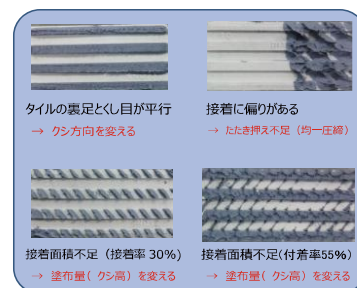
4.6.4. ポイント

- ・ スタッブ・ジーエス塗布の際には、他部材（土台水切り、屋根材、サッシ等）を汚さないために事前に養生シートなどで養生を行ってください。
- ・ 接着剤が他部材に付着したまま放置すると、硬化後は除去できなくなります。
- ・ ジョイントテープの周辺では段差が出ないようにしっかりと叩き押さえを行ってください。
- ・ 入隅やサッシ廻りで、下地面でシーリング処理した部分は、シーリング材の色が見えないようにスタッブ・ジーエスで塗りつぶしてください。
- ・ スタッブ・ジーエスのだんご（点付け）施工はしないでください。接着剤の硬化が遅くなり、剥離の原因となることがあります。
- ・ スタッブ・ジーエスをかき取る際は下地が透けないようにしてください。
- ・ 寒冷地域での寒冷期（昼間でも気温が5°C以下となる場合）の施工は行わないでください。

4.6.4.1. タイル張り

- ・ スタッブ・ジーエスを下地に塗り付けた後、直ちにタイルを張り付けてください。
- ・ タイルは水湿しをしないで、そのまま接着剤塗り付け面に揉み込むようにして押さえつけ、さらに押さえ板などで叩き押さえを行ってください。

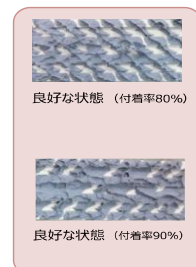
・ 悪い例



4.6.5. ポイント

- ・ タイル裏面が汚れていないこと、濡れていないことを確認してください。
- ・ ジョイントテープの周辺では段差が出ないようにしっかりと叩き押さえを行ってください。
- ・ 接着性の確認張り付け作業時、2㎡中、1~2個のタイルまたは1ユニットのタイルを剥し、スタッブ・ジーエスの付着状態を確認してください。
- ・ スタッブ・ジーエス付着面積の目安は、タイル裏面の60%以上です。
- ・ スタッブ・ジーエスの付着が不十分な箇所が発生した場合は、施工をやり直してください。
- ・ タイル切断の際には、乾式切断としてください。湿式切断を行いますと、連結材とタイルが剥離する恐れがあります。

・ 良い例



4.7. 紙剥がし・目地詰め

4.7.1. 紙剥がし

表紙張りユニットタイルは、タイル張付け後に紙剥がしを行ってください。

4.7.1.1. 水湿し

- ・ 4~6㎡を目安にし、タイルユニット紙に水湿しをしてください。
- ・ 噴霧器を使用する場合は、水の塗布量が少なくなります。表紙が濡れ色になるまで、十分に水を塗布してください。
- ・ 糊が軟化するまで、表紙を剥がさないでください。
糊が硬化したまま表紙を剥がすと、表紙が破れてタイル表面に残る原因となります。
- ・ 目安は水湿し後、3分程度放置してください。

4.7.1.2. 紙剥がし

- ・ 紙剥がし直前に再度水湿しを行い、ゆっくりと紙を剥がしてください。
- ・ 紙残りが発生した場合は、直ちに除去してください。

4.7.1.3. 糊洗い

- ・ タイル表面に残った糊に水湿しし、糊が落ちるまで硬質ナイロンブラシで擦り洗いを行ってください。
- ・ 糊を落とした後、流水で洗浄し、タイル表面にヌメリが無いことを確認してください。
- ※注意：糊の成分がタイル表面に残るため、カビが発生する原因となります。



4.7.2. 目地詰め

- ・目地詰めをする場合は、壁面重量に目地材重量を加算して設計してください。
- ・必要に応じて胴縁留付け間隔を変更してください。

4.7.2.1. 材料

目地材：ブリックマスター

4.7.2.2. 工事

- ・タイル張付け後、少なくとも1日以上経過し、タイルが動かないことを確認した後、目地詰めを行ってください。
- ・目地詰めは、ゴムごてを用いた塗目地または目地ごて（目地詰め用チューブ）を用いた一本目地で行ってください。
- ・目地材の締めりを見計らって目地ごてを用いて所定の深さにこぼ切りし、入念にコテ押えを行ってください。ただし、目地幅5mm以下の場合は、コテ押えを省略しても構いません。
- ・目地詰め後、タイル面の清掃を行ってください。その際、窓周りや他部材との取り合い部などのシーリング処理を行う部分にはみ出した余分なモルタルを除去してください。
- ・清掃は水洗いを原則とし、ブラシなどを用いてタイル表面に汚れが残らないように注意して行ってください。
- ・目地材による汚れがはなはだしいときは、工業用塩酸30倍希釈液を用いて酸洗いを行ってください。この場合は、事前にサッシ等の金物の養生を行い、酸洗いののちにタイル面や目地部分に塩酸が残らないように、直ちに十分な水洗いをしてください。

4.8. 洗浄

- ・工事で発生した切粉、接着剤のはみ出し付着などを清掃してください。
- ・裏ネットのほつれ残しはカッターナイフで除去してください。

4.9. 付属部材の取付け・化粧シーリング

タイル張り工事業者の対象外工事となります。

4.9.1. 材料

- ・化粧シーリングは、一液形変成シリコン系を使用してください。

4.9.2. 工事

- ・配管支持金物の取付け部位樋支持金物、配線・配管等の貫通穴部・支持金物の取付けは、柱等の下地のある場所でタイルやスタッブ・ボードに先穴をあけて、金物を打ち込んでください。
- ・直接樋支持金物を打ち込んだりするとタイルやスタッブ・ボードが割れるので注意してください。
- ・樋支持金物を打ち込んだスタッブ・ボード周囲は、シーリング材を充填して、雨仕舞いを確実に行ってください。
- ・電気、電話線をタイルやスタッブ・ボードに貫通させる場合も同様にシーリング工事を行ってください。
- ・配管工事は、支持材を使用し、タイルやスタッブ・ボードに直接密着させて施工しないでください。密着させると雨水や融雪水が、ほこりとともにタイルやスタッブ・ボード表面を流れ落ち、汚れの原因になりますので注意してください。
- ・支持材は、胴縁など下地のあるところに取付けてください。スタッブ・ボードだけで支持しないようにしてください。
- ・入隅部、他部材との取合い、サッシ廻り等には必要に応じてシーリング処理を行ってください。

4.10. 最終検査

施工によるタイルの割れ、欠け、汚れなどの欠点の有無について検査してください。

- ・タイル表面に接着剤が付着した場合は、スクレーパー、カッターナイフ等を使用しタイルを傷つけないように接着剤表面を削り取り、残りを汚れ除去用発泡樹脂製品、砂消しゴム等で削り取ってください。
- ・施工による不陸や段差の程度および出入隅の通りについて検査してください。
- ・目地は引き通しよく、目違いがなく、目地幅や目地深さが均一であるか、また著しい目地切れがないか検査してください。
- ・割付図・立面図・イメージパースなどがあれば照合し、外観検査を行い引き渡します。

4.11. 補修方法

部分的に割れたタイルは交換して補修してください。

- ・タイル目地詰め有りの場合は電動カッターで目地切りを行うと共に、タイルに2～3箇所もの切り込みを入れ、平タガネ等を用いてタイルを取り外してください。また、周囲の目地材も取り除いてください。
- ・目地詰めがない場合は、取り除くタイルに沿ってカッターナイフで接着剤に切り込みを入れ、皮スキ、平タガネ等でタイルを取り外してください。周囲の養生の仕方については、新聞紙を水で濡らしてガムテープなどで養生する方法などがあります。
- ・サイディング表面に残った接着剤を皮スキ、平タガネ等できれいに除去してください。
- ・サイディング表面の塗装に剥がれ、傷などが生じた場合には、補修用のプライマーまたは防水シーラーなど接着剤メーカーが指定する材料を塗布して、乾燥させてください。
- ・接着剤を均一に塗布し、不陸がないようにタイルを張付けてください。
- ・後張りするタイルは接着材の付着不足にならないよう注意してください。

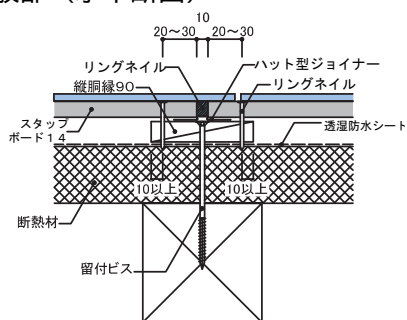


5. 適用タイル一覧 (2026.4.)

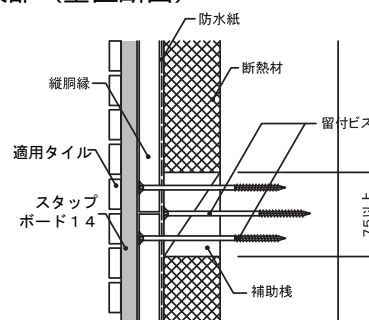
No.	区分	製品名	ユニット	接着剤色の制限	推奨目地幅 (mm)		接着剤塗布方法 ●ピプラート併用						タイル重量 (kg/m ²)
					縦	横	空地			目地詰め			
							3mmクシ目	5mmクシ目	5mmクシ目平押え	3mmクシ目	5mmクシ目	8mmクシ目	
1	ボーダー	アーバングランドボーダー	裏ネット	グレー	3.0	3.0		○					15.5
2		マールン	LJ	グレー	3.0	3.0		○					14.5
3		レクサム	LJ	グレー	3.0	3.0	○						14.3
4		ストラトボーダーII	LJ	グレー	3.0	3.0	○						14.3
5		ソフィア・プラス	裏ネット	グレー	3.0	3.0	○						15.6
6		ソフィア	LJ	グレー	3.0	3.0	○						14.3
7		ミューク	表紙	-	3.0	3.0	○						14.8
8		ケール	裏ネット	グレー	3.0	3.0	○						16.8
9		コラス	裏ネット	グレー	3.0	3.0	○						19.1
10		ユニゾン	表紙	-	5.0	5.0			○	○			12.7
11		コーネルボーダー	裏ネット	グレー	3.0	3.0	○						16.0
12		ボルツ	表紙	-	5.0	5.0			○	○			13.7
13		カノンII	JJ	グレー	2.0	2.0		○					26.4
14		トライオン	JJ	グレー	3.0	3.0		○					31.2
15		粉引	LJ	グレー	5.0	5.0		○	○				18.1
16		雪個	JJ	グレー	3.0	3.0		○					24.1
17	スクエア	デフィII	バラ	-	5.0	5.0		●			●	18.5	
18		マディソン (セレクト)	バラ	-	5.0	5.0		●			●	19.5	
19		ブロードストーン	バラ	-	5.0	5.0		●			●	19.5	
20		ティア	バラ	-	5.0	5.0		●			●	19.5	
21		フォーチュンハンマー	バラ	-	5.0	5.0		●			●	20.5	
22	二丁掛け	ウーノ	バラ	-	10	10			○		○	28.6	
23		スカーフェイス	バラ	-	10	10			○		○	20.4	
24		外灘様	バラ	-	10	10			○		○	20.4	
25		クラシック・ネクスト	バラ	-	10	10			○		○	20.4	
26		クラシック・ネオ	バラ	-	10	10			○		○	20.4	
27		レリック	バラ	-	8.0	8.0			○	○		20.4	
28		アンティグア	バラ	-	10	10			○	○		20.4	
29		響	バラ	-	10	10			○		○	20.4	
30	その他	ゴードン	バラ	-	10	10						○	20.4
31		シャンハイブルー	バラ	-	10	10			○	○			18.2
32		ザーラ	バラ	-	10	10		○					27.5
33		鐘音	バラ	-	10	10			○		○		25.8
34		大粉引	バラ	-	5.0	5.0			○		○		25.8
35		ウッドマイスター	バラ	-	3.0	3.0		●			●		18.5
36	モザイク	グリッドストリーム	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.0
37		グリッドクォーツ	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.0
38		グリッドモルタル	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.0
38		グリッドグレ	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.0
39		グリッドトラヴァ	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.0
40		グランデール	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8
41		アルカディア	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8
42		シムーン	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8
43		マチネ	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8
44		アルテシア	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8
45	クレイトン	表紙	-	5.0	5.0			○	○			11.8	
46	ノートII	表紙	-	5.0	5.0			○	○	○		11.8	

6. 納まり参考図

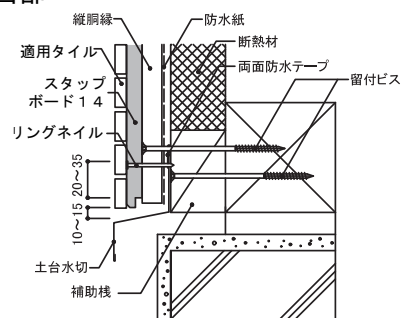
6.1. 一般部 (水平断面)



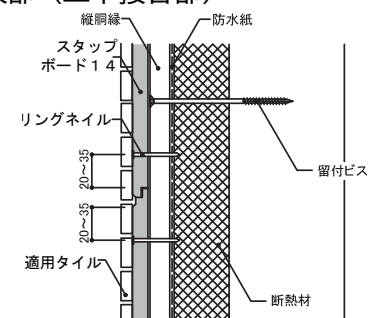
6.2. 一般部 (垂直断面)



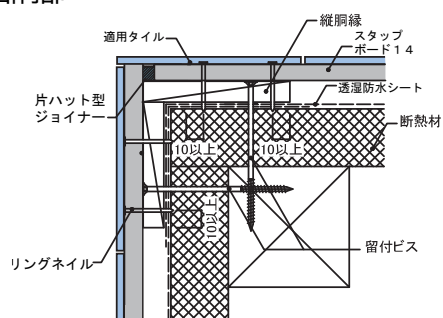
6.3. 土台部



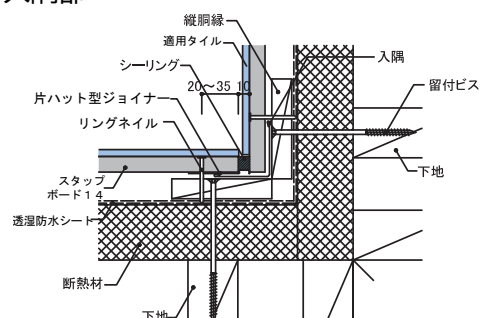
6.4. 一般部 (上下接合部)



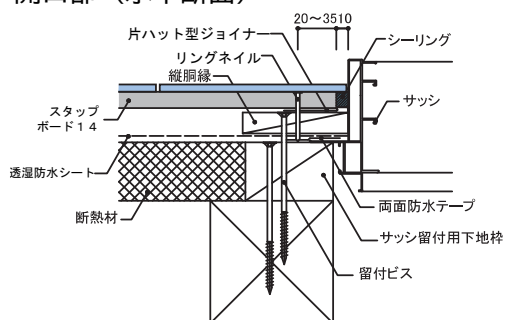
6.5. 出隅部



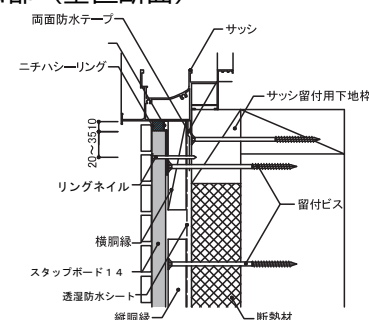
6.6. 入隅部



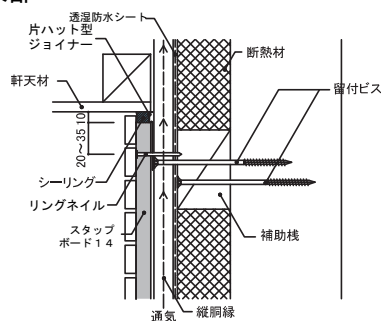
6.7. 開口部 (水平断面)



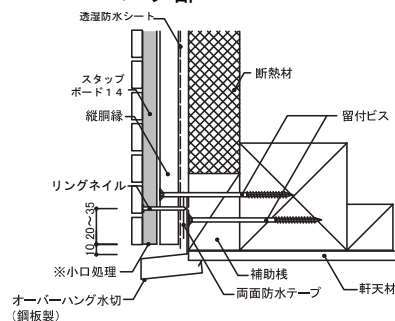
6.8. 開口部 (垂直断面)



6.9. 軒天部



6.10. オーバーハング部



7. チェックシート

タイル下地張り工事自主チェックシート兼工事完了報告書

お客様名		契約 No.	
建設地		工事期間	
仕様		タイル	
元請会社名		元請担当者	
施工店名		作業者名	

チェック記号 ○：出来ている ×：出来ていない /：該当無し

項目	内容	No.	チェック	備考	不具合	対応 チェック
工事前	材料確認	各材料は指定の品番か	1			/
		各材料が必要数量納入されているか	2			/
	足場確認	適切な足場が設置されているか	3			/
	施設確認	水道・電気設備は整っているか	4			/
タイル下地の施工	下地精度	建ち	3 mm以内かつ高さの1/1000 以内	5		/
		通り	一面：3 mm以内	6		/
		下地の継目段差	2 mm以内	7		/
		躯体、基礎部の継目段差	2 mm以内	8		/
		軒天レベル	2 mm以内	9		/
		開口部の水平レベル	3 mm以内	10		/
	下地状況	サッシや見切り等の部材は正しく取り付けられているか	11			/
		ボルト等の出はないか、また下地の不陸はないか	12			/
		基準墨は出ているか	13			/
		配管設備等は設置してあるか	14			/
柱・間柱の間隔は 500mm 以下か		15			/	
入隅部など必要な箇所に添え柱、補助材などが適切に配してあるか		16			/	
防水紙の施	指定の防水紙を使用しているか	17			/	
	横張りで下から張られているか	18			/	
	重なり代は指定以上確保されているか（上下：100mm、出隅部：両側に柱幅ずつ）【写真】	19			/	
	（面材がない場合）左右：一般部 1 スパン、入隅部両側に 1 スパンずつ	20			/	
	（面材がある場合）左右：一般部 150mm、入隅部 両側に柱幅ずつ	21			/	
	損傷箇所はないか。あれば補修すること。	22			/	
胴縁の施工	サッシ廻り等は、防水テープで密着されているか 【写真】	23			/	
	胴縁サイズは厚 15×幅 45mm 以上の材料が 500mm ピッチ以下で施工されているか	24			/	
	必要な箇所に幅広（90mm 以上）の胴縁が使用されているか	25			/	
	通気構法のための胴縁施工がされているか（土台・軒天・開口廻り等）	26			/	
	土台水切り・バルコニー水切りは水平に取り付けてあるか	27			/	
	指定ハット型ジョイナー、捨て入隅等が適切に配されているか 【写真】	28			/	
スタップ・ボードの留付け	専用の下地材が張られているか	29			/	
	濡れたスタップ・ボードを施工していないか	30			/	
	スタップ・ボードは所定の留め付け方法で施工されているか（釘の本数、位置、長さ、太さ）	31			/	
	釘の端打ち間隔は 25mm～35mm か 【写真】	32			/	
	基礎水切りとの隙間は、一定で 10～15 mm確保されているか	33			/	
	オーバーハング部水切りとの隙間は、一定で 10～15 mm確保されているか	34			/	
	下屋部屋根材との隙間は、一定で 15～20 mm確保されているか	35			/	
	縦目地の通りはそろっているか	36			/	
	シーリング箇所の目地幅は 10 mm になっているか	37			/	
	上下継目および左右目地の段差は目立たなくなっているか	38			/	
	割れ、欠けがないか	39			/	
	釘の打ち込みすぎや、打ち込み不足はないか	40			/	
	切断小口でプライマーが塗布されない箇所にはシーラーを塗布しているか	41			/	
	スタップ・ボード切断面のほこりは除去されているか	42			/	
シーリング 施工	専用（推奨）シーリングが使用されているか、またプライマー処理はされているか	43			/	
	必要な箇所にシーリングがされているか	44			/	
	土台水切りと下地材最下端との取り合いにシーリングしていないか	45			/	
備考		46				
工事後	納まり	全体的な仕上げに不具合はないか	47			/
	現場確認	残材処理・現場清掃はされているか	48			/
	完了確認	工事完了報告書は作成・提出されているか	49			/
	備考		50			

上記チェック項目の不備内容については、 月 日 手直し完了しました。

<p>元請記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了したことを認めます 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>現場管理者 _____ 印</p>	<p>工事会社記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>主任技術者 _____ 印</p>	<p>施工者記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>施工責任者 _____ 印</p>
--	--	---

タイル張り工事自主チェックシート兼工事完了報告書

お客様名		契約 No.	
建設地		工事期間	
仕様		タイル	
元請会社名		元請担当者	
施工店名		作業者名	

チェック記号 ○：出来ている ×：出来ていない /：該当無し

項目	内容	No.	チェック	備考	不具合	対応 チェック
工事前	材料確認	各材料は指定の品番か	1			/
		各材料が必要数量納入されているか	2			/
	足場確認	適切な足場が設置されているか	3			/
	施設確認	水道・電気設備は整っているか	4			/
	気温	気温が5℃を下回っていないか	5			/
タイル施工	下地の確認	スタップ・ボード面精度は±1.0mm/2m以内か	6			/
		スタップ・ボード表面に接着の阻害となる状況はないか	7			/
		スタップ・ボード表面に接着の阻害となる不陸はないか	8			/
	ジョイントテープ張り	必要な箇所に指定のジョイントテープが貼られているか	9			/
		シワが寄っていないか、重なって貼られていないか	10			/
	タイル張り	他部材の養生はされているか	11			/
		温度、天候は工事に適した気象条件か	12			/
		使用するタイル、目地詰め有無に応じた適切な接着剤の塗布方法、塗布量となっているか	13			/
		スタップ・ジーエス（L）の塗布方法は適切か（5mmクシ目、3mmクシ目、5mmクシ目平押え）	14			/
		スタップ・ジーエス（L）の塗布量は適切か	15			/
		スタップ・ジーエス（L）の塗り置き時間は所定の時間内か（目安 夏期：15～30分、冬期：30～60分）	16			/
		接着剤の付着状況のチェックはされているか（60%以上）	17			/
		タイル割りは仕様通りか	18			/
		タイル張り仕上り精度は良好か	19			/
		目地詰め無しの場合、目地部の仕上りは良好か	20			/
		接着剤塗布後の釘穴は接着剤で塞がれているか	21			/
		タイルカット面は同一方向に施工されているか（見え掛りと逆方向）	22			/
		著しく短いタイル切断はされていないか	23			/
		タイルの浮き・傾き・段差等がなく納められているか	24			/
		タイルに著しい割れ、欠け無いか	25			/
	目地詰め	目地残りはないか、必要に応じて目地押さえはされているか	26			/
	洗い	洗い（酸洗い）はされているか	27			/
		表紙張りユニットの紙残りはないか	28			/
		表紙張りユニットの糊残りはないか	29			/
	化粧シーリング	シーリング材は指定の材料・色を使用しているか	30			/
	タイルと各部位の取合い	基礎水切りとの隙間は、一定で10～15mm以上確保されているか	31			/
オーバーハング部水切りとの隙間は、一定で5～15mm以上確保されているか		32			/	
下屋部屋根材との隙間は一定で15～20mm確保されているか		33			/	
サッシや開口部材にタイルを突き付けていないか		34			/	
仕上り	はみ出した接着剤、タイルに付着した接着剤、汚れ、ゴミは除去しているか	35			/	
	サッシ・金物・庇・屋根などへの汚れの付着はないか	36			/	
備考		37				
工事後	納まり	全体的な仕上げに不具合はないか	38			/
	現場確認	残材処理・現場清掃はされているか	39			/
	完了確認	工事完了報告書は作成・提出されているか	40			/
	備考		41			

上記チェック項目の不備内容については、 月 日 手直し完了しました。

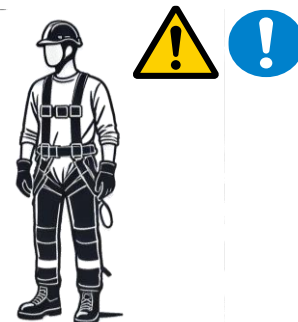
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">元請記入欄</div> <p>■ 上記工事が完了したことを認めます 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>現場管理者 _____ 印</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">工事会社記入欄</div> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>主任技術者 _____ 印</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">施工者記入欄</div> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>施工責任者 _____ 印</p>
---	---	--

8. 注意事項

8.1. 安全衛生について

8.1.1. 安全衛生心得

- ・安全第一に徹すること
- ・作業服は上下共に正しく着用すること
- ・作業場の整理整頓を行うこと
- ・作業者相互の安全確認を十分行うこと
- ・健康状態を十分確認すること
- ・電動工具、空気圧工具の安全性チェックを行うこと



8.1.2. 安全衛生規則

- ・安全ヘルメット（墜落保護用）を着用すること。（労働安全衛生規則第539条）
- ・滑りやすい履物を使用しないこと。（建設業労働災害防止規程第25条）
- ・墜落の恐れがあるときは、安全帯を着用すること。（労働安全衛生規則第520条）
- ・足場の安全性を確認すること。
- ・切断作業の際、長時間多量の粉塵を吸収すると健康を損なう恐れがあります。集塵装置付カッター並びに局所排気装置、防塵マスクの着用、うがい手洗いの励行、切断片の安全な処分等に留意してください。

8.2. 部材保管・納入時の注意

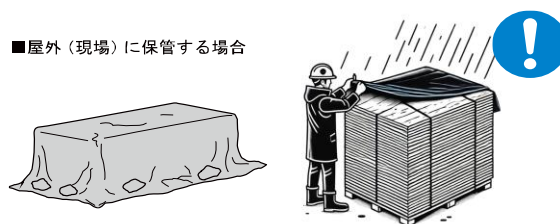
8.2.1. 保管

- ・不具合の原因となりますので、濡らさないようにし、施工現場では必ずシートをかけて保管してください。
- ・保管は原則、屋内の堅い水平な場所に保管してください。やむを得ず屋外に置く場合は、風雨を避けるため、ポリエチレンなどの防水シートで覆い、シートが飛ばないように養生してください。
- ・地面に直接置かないで、パネルや角材を用いて飼木（かいぎ）をしてください。
- ・日陰で風通しがよい場所に保管してください。

8.2.2. 取扱い

- ・車輛などでの運搬時は平積みをし、急ブレーキ時の損傷を防ぐため、ロープを掛け、角には必ず当て板をしてください。
- ・クレーンでつり上げる時には、ロープによる損傷を防ぐため当て板を行い、損傷の無いようにしてください。
- ・持ち運びは、垂直に小端立てにして運んでください。また、汚れた手で触らないように注意してください。
- ・当てたり、落としたりして、角などを損傷しないよう十分注意してください。
- ・汚れた手で触らないように注意してください。水濡れしたものは使用しないでください。
- ・逆さ持ちや、側面を上方にしないでください。
- ・カッターナイフ等で開封する際は、製品を傷つけないよう注意してください。

■屋外（現場）に保管する場合



8.3. 維持管理のポイント

8.3.1. 日常の維持管理とお手入れ方法

- ・ご使用中の環境や、他部材からのもらい汚れなどで、タイル表面の汚れが目立つ場合があります。日常のお手入れ方法で除去できない場合は、汚れ除去フローに従って、適切な処置を行ってください。
- ・空地の場合は、目地部接着剤に変色や劣化の影響が出ないよう、十分に注意してください。
- ・洗剤や薬剤を使用する場合は、それぞれの取扱説明書に従って正しく使用してください。また、必要に応じて保護具（眼鏡、マスク、ゴム手袋など）を着用してください。
- ・洗浄は、目立たないところで効果を確認し、実施してください。
- ・希塩酸やシュウ酸、強酸性洗剤と塩素系漂白剤やカビ剤などを混ぜると、塩素ガスが発生する場合がありますので、同時に使用しないで下さい。
- ・強塩洗剤や希塩酸を使用する場合は、金属製品が錆びたり目地部が侵される恐れがあるので、洗剤がかからないよう注意してください。
- ・漂白剤や有機溶剤を使用する場合は、十分換気してください。
- ・洗浄後は、十分水洗いを行い、洗浄剤が残らないようにしてください。

